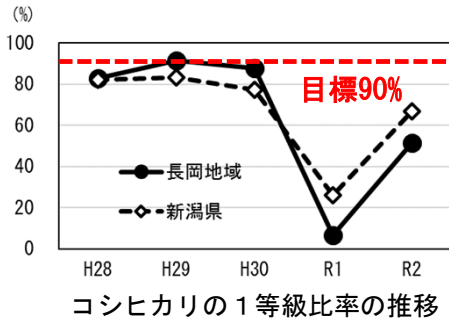


令和3年産米生産のポイントは ①中干し ②穂肥 ③水管理

令和2年産コシヒカリの品質



令和2年産の品質は、前年度より回復したものの、1等級比率は目標に届きませんでした。

コシヒカリの格落ち理由（長岡地域）

順位	格落ち理由	割合 (%)
1	除青未熟	49.8
2	背白	24.2
3	心白	17.3

令和2年産米の品質低下の要因

- ① 7月の日照不足・長雨による茎質低下、後期栄養不足による登熟不良
- ② 早期倒伏による登熟不良



令和3年産米の品質向上に向け、特に実施してもらいたい技術

1 適期中干しと溝切りの実施

- 移植後25日に茎数を確認し、遅くとも移植後30日までに中干し開始。
- 溝切りは必ず行い、必要により手直しも行う。

2 後期栄養の維持（穂肥、追肥）

- 2回目の穂肥は確実に施用する。（基肥一発の場合も葉色が低下したら追肥）
- 分施・基肥一発ともに、高温が予想され、2回目穂肥施用後に葉色が薄い場合は追加穂肥を施用する。

3 こまめな水管理

- フェーンによる異常高温時は、地域の水利条件に応じて、地温を下げるための水管理を行う。
- 登熟期間は飽水管理を徹底し、落水は出穂期25日以降とする。
- 出穂期25日以降も高温が続くときは、できる限り遅くまでかん水を継続して土壌水分を保つ。

異常気象への対応方向

適期作業実施のための作付計画

- ・ 機械・施設能力に応じた品種作付けを行いましょ。
- ・ 出穂時にフェーンに遭遇するリスクを分散する(複数品種の栽培、は種・移植時期の分散、直は栽培等の取り入れ)ことを検討しましょ。

セーフティネットの活用促進

- ・ 収入保険に加入し、品質・収量低下などに備えましょ。

土づくり

- ・ **ケイ酸**を含む土づくり資材や、堆肥を施用しましょ。
- ・ 下層土から水とケイ酸を吸収しやすくするため**耕深15cm**を確保しましょ。
- ・ 稲わらの**秋すき込み**で、地力の向上と物理性(保水力)の改善を図りましょ。

初期生育促進と良質茎確保

- ・ **稚苗は20日間程度の育苗日数**となるよう、田植え時期に合わせた適期は種を行いましょ。
- ・ コシヒカリは平坦部で平温年の出穂期が8月5日以降となるようは種を行いましょ。

適期中干しによる適正な生育量確保と倒伏防止

- ・ 本格的な梅雨前に地固めを行いましょ。**田植え後25日に茎数を確認し**、目標穂数の70%を確保したら(遅くとも移植後30日までに)**中干しを開始**しましょ。
- ・ **溝切りを必ず行**いましょ。

生育診断に基づいた後期栄養の確保と水管理

- ・ **1回目の穂肥は、生育診断**に基づいて施用しましょ。
- ・ **2回目の穂肥は、確実に**施用しましょ。**基肥一発肥料を使用したほ場**も、葉色が低下した場合は、追肥しましょ。
- ・ 登熟期間は**飽水管理を徹底**し地力窒素の吸収を促しましょ。
- ・ 落水期は出穂期25日後以降としましょ。

異常高温時

- ・ 高温が予想され、2回目の穂肥施用後も葉色が低下した場合は、追肥を実施する。(基肥一発肥料を用いた栽培の場合も同様)
- ・ 夜間の温度を下げるための水管理を、地域の水利条件に応じて行。
- ・ 可能な限り遅くまでかん水を継続する。

適期収穫と適正乾燥・調製の徹底

- ・ 出穂後の気温経過と気象庁が発表する1か月予報等を参考にして8月中旬頃までに計画を立てましょ。
- ・ もみの黄化率を確認して**適期に収穫**しましょ。

異常高温時

- ・ 早めに収穫を始め、刈遅れによる品質低下を防止する。
- ・ 乾燥速度を落として胴割粒の発生を軽減する。